

居場所を見つけて 生き生きと

青谷町の顔として

3月上旬、障がい者就労支援事業所で生産される菓子類のコンテスト「スウィーツ甲子園」が、兵庫県神戸市で開催されました。鳥取市青谷町のNPO法人「のぞみハウス」は、地元の酒米を用いた米粉クッキーを出展。惜しくも受賞を逃しましたが、素材の甘さを引き出したヘルシーなクッキーは、イベントの来場者にも好評で、大いに青谷町のPRができました。

のぞみハウスは「障がい者が安心して一日を過ごせる居場所を」という家族の願いを実現させるため、平成20年10月にNPO法人として設立。地元の作物を活かした菓子類の製造・販売、青谷町総合支所や青谷駅の美化活動など、地域に根付いた活動を行っています。現在、施設の利用者は17人。年齢層が20代から50代までと幅広く、障がいの程度も異なりますが、「それぞれの得意なことを伸ばそう」と思っています」と所長の一昌さん。作るだけの軽作業から始め、徐々にできることを見

つけていくなど、利用者の個性の把握を最も大切に行っています。利用者のみならず、苦労があっても3カ月ほどで慣れるのは、一昌さんから職員の根気強くていねいな指導があるからこそ。職場の雰囲気はとても明るく、一つの大家族のようです。

のぞみハウスは「梨、小豆、よもぎなど、青谷町でとれる食材を使った美味しいお菓子を、地域の人たちに食べてほしい」と、先の米粉クッキーをはじめ、パイやシフォンケーキなどのお菓子の製造に力を入れています。

のぞみハウス



所長
浦島 一昌 さん
Kazumasa Urashima

生活支援員
浦島 祐吾 さん
Yugo Urashima



米粉クッキーの製造作業

《4月の番組ガイド》

.....鳥取市行政番組.....

『こんにちは鳥取市です』【放送】毎週金・土

鳥取市の施策や事業の取り組み状況、各種行事、お知らせを紹介します。

【話題・特集】

- ▷「砂の美術館」オープン
- ▷鳥取環境大学入学式
- ▷春の鳥取砂丘一斉清掃
- ▷鳥取市消防団入団式



昨年春の鳥取砂丘一斉清掃

静止画文字情報

『鳥取市からのお知らせ』【放送】毎週水・木・金・土



イベント・募集・相談などの各種お知らせを、文字画面と音声でご案内します。

いなばびよんびよんネット

自主制作番組

農業番組『いなばアグリタイム』【放送】毎週水・木

春を迎え稲作の準備が始まった様子や、「とっとりふるさと就農舎」、「子ども農業塾」などの話題をお送りします。

地域情報番組『とっとりウオーキング』【放送】毎週日・月

入学式や入園式の様子や各地の春のまつりなどを紹介します。

生活情報番組『びよんびよんワイド』【放送】毎週火

子育てや健康をテーマに、暮らしに役立つ情報や話題をお届けします。

手話番組『手話でコミュニケーション』【放送】毎週日・月

ニュースや話題、行事、お知らせを手話や字幕で紹介いたします。

※番組の放送時間や内容はホームページまたはデジタル放送の電子番組表(EPG)をご覧ください。

「デジアナ変換」サービス実施中

ケーブルテレビ局では地上デジタル放送をアナログ方式に変換して各家庭にお届けする「デジアナ」変換サービスを実施しています。ケーブルテレビに加入されていれば、アナログテレビで地上放送が視聴いただけます。

詳しくは、ご加入のケーブルテレビ局にお問い合わせください。

情報をお寄せください！

いなばびよんびよんネット ☎ 0857-22-6111

※放送予定は予告なく変更することがあります。

番組の放送時間は、ホームページでも紹介しています。

<http://www.inabapyonpyon.net>



のぞみハウスで製造された商品

のぞみハウスで一番人気の米粉クッキーですが、祐吾さんは「この商品が神戸の人たちに通用するのにか」という不安が強く、スウィーツ甲子園への出展には消極的でした。しかし、一昌さんをはじめ、周囲の支援助と、何よりのぞみハウスを知ってほしいという思いで出展

責任とやりがいを実感

のぞみハウスで一番人気の

を決意。本番までの短い期間で、より広く受け入れられる商品づくりに挑戦しました。米粉と小麦粉の比率、砂糖と塩のバランスを変え、試作と試食を繰り返しながら、素材の甘みを活かした香ばしい味と食感を追求。また、一袋を飽きずに食べられるよう、ココアの味を強くしたり、卵黄を塗って光沢を出したりと、見た目と味にメリハリをつけるよう工夫しました。「利用者のみなさんは、商品に対する責任とやりがいを強く持つようになりました」

生き生きとできる場所

と、祐吾さんは、よいものを作ろうとみんなの気持ちが一つになったことが、何よりの収穫だと確信しています。のぞみハウスは、よりよいものを作るために商品の開発と改良を積み重ねています。最近完成した「二十世紀なしちよこれえと」は、低温でじっくりと焼き上げ旨味を凝縮した梨と、チョコレートの甘さが上手くマッチ。「甲子園でも入賞を狙えるかも」と、一昌さんは期待を寄せます。

一昌さんらは「利用者あつてののぞみハウス」と謙遜しながらも、お菓子づくりや販売を通して、個性を大切にしながら自立を支援していく役割の大切さを理解しています。その分、利用者のみなさんが「のぞみハウスが私の職場」と、家庭や地域の中で胸を張ってくれることに、誰よりも喜びを感じています。のぞみハウスのお菓子は、笑顔いっぱいの利用者のみなさんと、それを支える職員のみなさんの愛情がたっぷり注がれた、やさしい味がします。